

# 平成 25 年度事業計画書

平成 24 年 10 月 31 日

横浜市立みなと赤十字病院

## 目次

I	政策的医療への取組み	1
1	救急医療事業	
2	緩和ケア医療	
3	障害児者合併医療	
4	災害時医療・市民の健康危機への対応事業	
5	アレルギーセンター	
6	精神科救急・身体合併事業	
II	地域医療連携	13
1	地域医療連携事業	
III	地域医療の質の向上	16
1	患者・市民に対する相談・啓発事業	
2	その他	
(1)	市民委員会	
(2)	倫理委員会	
(3)	治験	
IV	病院管理	21
1	医療安全	
2	災害対策事業	
3	患者サービス事業	
V	職員等研修計画	25
1	院内職員研修計画	
2	院外学生研修計画	
3	臨床研修事業	
VI	外部委託業務	38
1	外部委託業務	
VII	情報管理	47
1	情報管理	

VIII	職員	49
1	組織図・職員配置予定図	
2	診療科部門責任体制	
3	看護部門責任体制	
4	健診部門責任体制	
5	医療連携部門責任体制	
6	検査・医療技術部門責任体制	
7	管理部門責任体制	
IX	医療機器整備計画・施設管理計画	58
1	医療機器整備計画	
2	施設設備管理計画	
3	施設設備改修計画	
X	経営計画	62
1	科別患者数（外来）	
2	科別患者数（入院）	
3	行為別診療収入（外来）	
4	行為別診療収入（入院）	
5	中央部門業務計画	
6	損益計算書（中期経営計画）	
7	損益計算書（資本的）（中期経営計画）	
8	手術件数	
9	出産件数	

# I 政策的医療への取組み

# 1 救急医療事業

## 1 事業概要

救命救急センターとして、重症及び複数の診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れるとともに、横浜市の二次救急拠点病院のA病院として比較的重症度の高い患者を中心に、救命救急センター同様24時間体制で救急隊搬送患者に対応している。

## 2 現状と課題

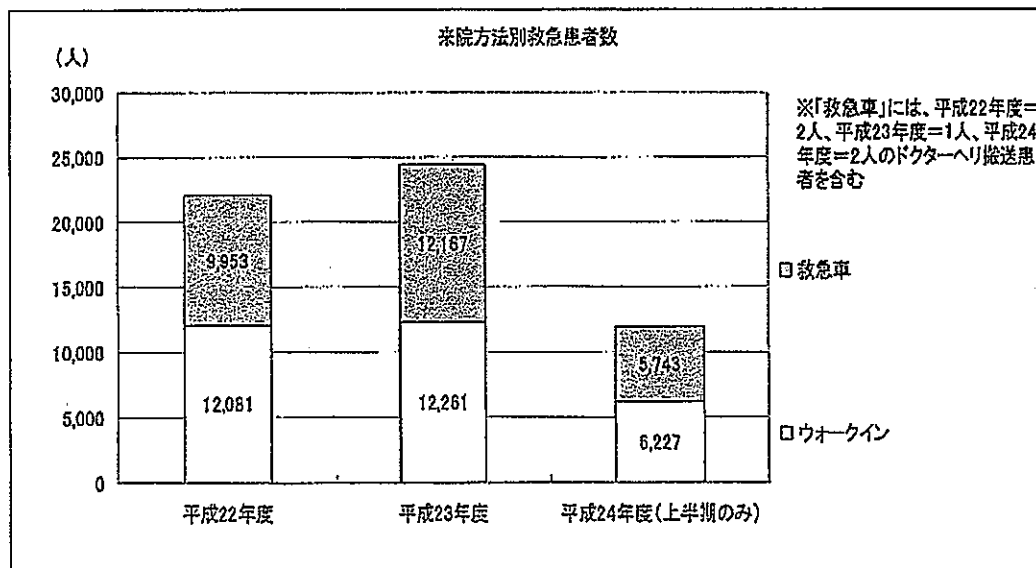
病院開設翌年の平成18年以降、救急車受入台数は横浜市内でトップを維持し、23年度は12,166台と救命救急センターとしてはおそらく国内でトップの受入数を達成した。さらに24年度9月の時点では昨年に匹敵する数を受け入れている。しかしこれは裏を返してみれば、他院で受け入れ困難とされた患者を多く受け入れることにもなり、この中には泥酔者、行路人、精神疾患患者、モンスターペイシャント、身寄りの無い老人などが多く含まれる。

それにより救急外来でのトラブルや、退院先の目処が立たない老人患者が年々増加している。救急外来での無用のトラブルはスタッフの疲弊から救急医療崩壊へ繋がる危険性がある。また退院不能患者の増加は新たな救急受入を困難にする要因になりうる。これらの点への対策は一個の医療機関の努力だけでは限界があり、行政のサポートが強く望まれる。

## 3 25年度事業計画

断らない救急の基本理念の下、救急車断り率5%以下維持を目標にする。ただし24年9月までの中間実績では1.8%を記録しているため、場合により2~8%以下に修正できるかも知れない。また、地域の救急医療レベル向上に貢献する目的で、救急医療に関するoff-the-job-training講習会(JATEC、JPTEC、ICLS、JTASなど)の開催をさらに積極的に進めたい。

## 4 データ



## 2 緩和ケア医療

### 1 事業概要

がん患者と家族が自分らしく過ごせるように、症状緩和を中心としたチーム医療を基本とし、がんと診断された時から緩和ケアチームが支援を行い、抗癌治療が難しくなった段階では緩和ケア病棟において継続したケアを提供する。

### 2 現状と課題

緩和ケア医師の交替により診療体制が変更となったため、各診療科の支援を受けながらこれまでの機能が維持できるように努力している。しかし、病棟稼働率では前年比マイナス10%以上の71%前後での推移となっている。緩和ケアチームのコンサルテーションの質の維持という点においても、さらなる常勤の専従医師の確保が早急な課題である。

### 3 25年度事業計画

- ・緩和ケア常勤医師の確保ならびに診療体制の安定化
- ・緩和ケア病棟の稼働率80%維持
- ・緩和ケアチームによるチーム医療の推進ならびにコンサルテーションの質の維持

### 4 データ

#### [緩和ケア病棟]

	22年度	23年度	24年度(見込み)
入院患者数	250名	197名	157名
退院患者数	227名	197名	157名
死亡患者数	176名	168名	117名
緩和ケア病棟平均在院日数	34.02日	38.0日	40日

#### [緩和ケアチーム]

	22年度	23年度	24年度(見込み)
新規依頼数	224件	141件	130件
依頼人数	138件	117件	114件
延べ件数	4084件	3199件	236名
受け持ち患者数	15.6人/日	13.3人/日	9.1人/日
緩和ケア診療加算算定日数	18.2日	21.9日	19.26日
麻薬管理加算	166名	105名	110名
入院精神療法加算	59名	63名	40名

## 5 その他

緩和ケア研修会や緩和ケア関連の講演会を企画し、地域の緩和ケア医療の啓蒙活動を推進する。

### 3 障害児者合併症医療

#### 1 事業概要

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討する。

#### 2 現状と課題

旧横浜市立港湾病院からの継続医療患者への適切な医療の提供、障害児者医療への職員の研修啓発に努める。平成24年度は院内研修（講演）を企画中である。また、平成24年7月より開始した、横浜市メディカルショートステイシステムの協力病院として横浜市の障害児者医療に貢献する。

#### 3 25年度事業計画

- ・継続医療患者への医療提供
- ・職員への研修啓発のため、院外研修を企画
- ・横浜市メディカルショートステイシステムへの協力

#### 4 データ

	22年度	23年度
入院延べ患者数	302人	337人
入院実患者数	14名	15名
1患者あたりの入院回数	1～9回	1～10回
年齢	1～40歳	2～43歳



## 4 災害時医療・市民の健康危機への対応事業

### 1 事業概要

災害時の市民の健康危機管理を実施するため、災害対策本部を設置して病院内外の情報を収集し病院機能の維持に努め、状況に応じて傷病者の受け入れを行う。

### 2 現状と課題

災害時の緊急資機材等は病院前にある災害救護倉庫に備蓄されているが、大規模な津波が到達した場合の緊急資機材等の流出を考慮し、保管場所を分散させる等の対策を検討する必要がある。

また、長時間の活動を行えるよう、職員用非常食の備蓄を増やす必要がある。院内の災害対策は、災害対策ワーキンググループで検討を行っている。

### 3 25年度事業計画

- ・防災マニュアルの改訂と災害時用資機材の保管場所の検討。
- ・改定後の防災マニュアルに基づき総合防災訓練の実施。
- ・非常食の追加購入。

### 4 データ

- ・職員用非常食 1,000 食
- ・簡易ベッド 540 台
- ・NBC災害除染セット 1 式
- ・エアータント 1 式
- ・イージーアップテント 2 式
- ・発動発電機 3 台
- ・救護班用医療セット 1 式
- ・DMAT医療セット 1 式
- ・日赤業務無線機等 1 4 台
- ・衛星携帯電話 2 台
- ・救急車 2 台
- ・災害救護車両 1 台、

## 5 アレルギーセンター

### 1 事業概要

アレルギーセンター事業は、アレルギー・免疫疾患に関する診療、相談・情報提供、情報発信、啓発活動、臨床研究の5本柱からなる。

### 2 現状と課題

#### (1) 診療

アレルギー・免疫疾患の診療に携わるアレルギー科（成人の気管支喘息・咳喘息、食物・薬物アレルギー、アナフィラキシー、シックハウス症候群・化学物質過敏症など）、小児科（小児の気管支喘息、食物・薬物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎など）、皮膚科（アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など）、耳鼻咽喉科（アレルギー性鼻炎、花粉症など）、眼科（アレルギー性結膜炎等）、呼吸器内科（過敏性肺炎、好酸球性肺炎など）、膠原病リウマチ内科（関節リウマチ、膠原病など）、精神科（シックハウス症候群・化学物質過敏症など）の8診療科および関連する整形外科、歯科口腔外科、さらにコメディカル、事務部の委員により構成される「アレルギーセンター運営委員会」を毎月定期的開催することによりセンターの運営方針を協議・決定している。同委員会に併設されている「合同カンファレンス」の実施により、複数科にわたるアレルギー・免疫疾患の横断的診療レベルの向上を目指している。患者数の多い気管支喘息と食物・薬物アレルギーについては、別途「喘息カンファレンス」と「食物・薬物アレルギーカンファレンス」を各々隔月で開催しており、問題症例の検討および最新医療情報の取得に努めている。

最近、当センターの診療内容が周辺医療機関に広く知られるようになり、アレルギー・免疫疾患診療の最後の砦として大学病院や他の総合病院からの紹介が増えている。短時間で死に至ることのあるアナフィラキシー（ショック）についても扱う患者数は横浜市随一であり、緊急時に患者が実施するアドレナリン自己注射（エピペン®）の処方数も最多である。24年10月現在、アレルギー科、小児科、皮膚科の3科が（社）日本アレルギー学会、膠原病リウマチ内科が（社）日本リウマチ学会の認定教育施設を取得済みであり、アレルギー科に加えて小児科と皮膚科のアレルギー診療業務も一部は2階のアレルギーセンターへ移行した。さらに、23年度はアレルギーセンター保健師1名が日本小児難治性喘息・アレルギー学会の認定エデュケーター資格を取得した。

一方、他の医療機関から診断困難としてアレルギーセンターへ紹介される症例は一人当たりの外来診療に長時間を要する（初診時は1人に1時間近く）。特にアナフィラキシーを起こすような重症成人食物アレルギーについては、横浜市内での受入機関が当センターのアレルギー科と横浜市大病院皮膚科・横浜市大医療センター皮膚科の3

施設に限られており、多くの問題症例が集中する。ところが、アレルギー科は多くの外来定期通院患者に対して常勤医が3名（1名は呼吸器内科と併任）しか確保されておらず、医師1名あたり約500人の患者（他診療科の2～3倍）に対応している。また、ハイリスクゆえに医師自身が実施する気道過敏性試験、皮膚反応試験（プリックテスト、皮内テスト）、薬物経口負荷試験等は患者1人に30分から2時間を要する。これらの理由により、連日の午前・午後にわたる外来診療と検査実施にもかかわらず、アレルギー科の外来患者の予約間隔は2ヶ月より長くなってしまふ。

また、重症・難治性の喘息症例は各種専門的検査（スパイログラフとモストグラフによる気道可逆性試験、呼気一酸化窒素の測定など）や喘息長期管理のための教育と指導（全ての喘息患者への吸入指導、小児喘息患者と両親への病態説明など）を外来で実施中であるが、その特殊性から中央検査部技師や一般看護師では実施が困難であり、アレルギーセンターで訓練を受けた保健師に負担を強めていることが患者の待ち時間が長くなる最大の要因となっている。

したがって、危急の課題はアレルギー科常勤医師とアレルギーセンター専任検査技師の確保である。

#### (2) 相談・情報提供

成人・小児喘息相談（横浜市健康福祉局保健政策課の事業）を受託し、毎月1回（5人ずつ）実施中である。医師1名と看護師1名が問診、呼吸機能検査、診察を担当し、1人の相談者に対して30分をかけて対応している。

#### (3) 情報発信

センター機能に関する情報をセンターホームページ（HP）上で適宜更新中である。また、喘息・花粉症などの自己管理を目的とする粉塵・花粉・気象観測データのHPへの自動リアルタイム（数分毎の更新）アップロードには、センターの研究補助員および提携業者が24時間体制で監視・検証を実施している。

#### (4) 啓発活動

23年度は震災の影響もあり、回数は少なめであったが、一般市民を対象とする「横浜市民フォーラム」（2回）、医療従事者を対象とする「横浜みなと免疫アレルギー講演会」（1回）、当センターが代表施設である「横浜環境アレルギー研究会」の講演会（年1回）、当院職員と地域連携開業医を対象とする「みなとセミナー」（2回）、当院通院患者を対象とする「成人喘息教室」（3回）・「関節リウマチ教室」（5回）、夏季小児喘息キャンプ（1回）を実施した。これらのイベントなどの実施に際しての具体的な作業（会場設営や講師・業者とのやりとり）は24年度に事務員1名が採用され、23年度に比べると状況は好転したが、全日にわたる外来受付業務の補助（業務の特殊性のため受付の派遣社員の欠勤時に他の派遣社員では対応が困難）や数分毎に生じる一般市民や受診希望者からの電話相談などへの対応（これらもアレルギーセンター業務に位置づけられている）に追われることが多い。また、23年9月よりアナフィラキシーに対

するアドレナリン自己注射（エピペン®）が保険診療扱いになったことにより、学校や幼稚園・保育園の児童が同注射薬を使用する際の教師や保育士による補助に関する指導やアレルギーに関する全般的な知識の普及を目的として区役所からの教育研修会の依頼が多く、当センターのアレルギー専門小児科医・保健師と共に事務職員の出張も増えている。これらへの対策として、もう1名のアレルギー専門小児科医師と少なくとも3名の保健師あるいは看護師が前述の認定エデュケーター資格を取得する必要がある。

#### (5) 臨床研究

市内外7ヶ所に設置した粉塵・花粉・気象観測機器を用いた環境データ解析（EARTH）によるアレルギー疾患の予防、および携帯電話を用いた喘息遠隔医療（ARMS）による喘息コントロールの改善に関する臨床研究を実施中であり、日本アレルギー学会総会のシンポジウムで紹介済みである。センターの研究補助員1名が中心となり解析作業を実施すると共に、これらの研究実施に関する他施設の共同研究者や提携業者との毎月1回の定期会議を開催している。23年度は、EARTH対象患者の拡大とさらなる内容の充実を目的として、国立病院機構相模原病院院長の秋山一男先生（日本アレルギー学会理事長）の協力により同病院屋上にも環境観測機器を設置したが、具体的な共同研究の開始は未だである。また、他の4つの医療施設においても担当医師の交替等による連携の中断が生じており、研究組織の再構築が必要である。

### 3 25年度事業計画

#### (1) 診療

危急の課題は昨年度同様にアレルギー科常勤医師とアレルギーセンター専任検査技師の確保である（専任検査技師は中央検査部の3名程度にアレルギーセンタースキルを教育し、常時1名を派遣予定）。アレルギーセンターの中核をなすアレルギー科は2部門（名称は、難治病態アレルギー内科と気道疾患アレルギー内科の予定）とし、業務の円滑化を図る。有病率5%と言われる成人喘息については外来定期通院患者が膨らみすぎるのを回避する目的で、さらなる地域病診連携を拡大する。また、喘息診療の要である吸入指導に要する保健師の負担を軽減するために、病薬連携（小児科で開始している）を積極的に進める。

#### (2) 相談・情報提供

継続予定である。

#### (3) 情報発信

アレルギーセンターのHPの管理と更新は重要な課題であり、この領域に適した事務職員の雇用が必要である。

#### (4) 啓発活動

中長期的には市民フォーラムの回数を増やす必要があるが、当院および横浜市から

の人的支援が不可欠であり、そのシステムを構築する。

(5) 臨床研究

実施中の EARTH 研究については他施設との連携強化を目的に組織の再構築を図る。  
ARMS 研究と EARTH 研究の成果を各々「IT 機器を用いた喘息遠隔医療の有用性」および  
「屋外環境因子による気管支喘息増悪に関するエビデンス」として英語論文を作成す  
る。当院のアナフィラキシー患者を対象として、その関連遺伝子解明とバイオマーカ  
ーの開発を目指して理化学研究所ゲノムチームや秋田大学医学部病理病態医学講座と  
の共同研究を開始予定である。

4 データ

(1) 相談・情報提供

横浜市健康福祉局委託の成人・小児ぜん息相談を毎月実施中

(2) 啓発活動

- ・横浜市民向けフォーラム 2 回
- ・医療従事者向けの講演会 1 回
- ・地域と職員向けセミナー 2 回
- ・患者向けの成人喘息教室 3 回
- ・患者向けのリウマチ教室 5 回
- ・夏季小児ぜん息キャンプ 1 回

## 6 精神科救急・身体合併事業

### 1 事業概要

「神奈川県精神科救急医療に関する実施要綱」等に基づき、4 県市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）が協調して、「精神科救急」及び「精神科身体合併医療」を提供している。

「精神科救急」として、上記要項に定める「基幹病院」として、「二次救急」（医療保護入院）及び「三次救急」（措置入院）の受け入れを行っている。当院は、年間 30 人超の措置入院患者を受け入れており、措置不要になり入院しなかった者と 2 次救急を含めるとそれ以上の患者の受け入れを行っている。

「精神科身体合併医療」として、精神科病院で発生した身体疾患を合併した精神病患者を年間 70 人超の受け入れを行っている。身体疾患の種類は多岐におよび、それを精神科病棟にて受け入れている。

### 2 現状と課題

- (1) 精神科 3 次救急については、当院は「基幹病院」としての役割を十分に果たしていると考えている。ただし、現在、「精神保健指定医」の資格を有する常勤医師が 4 名であり、さらなる精神科 3 次救急に対応するためには、「精神保健指定医」の増員を図る必要がある。
- (2) 身体合併症医療についても、ほぼ軌道に乗っていると思われる。しかし、上述したように、身体疾患が多岐にわたることから、各種の疾患にスタッフが対応せざるを得ず、スタッフが疲弊しているのが現状である。当院以外に「精神科身体合併事業」をしている 2 病院（横浜市立大学附属市民総合医療センター及び済生会横浜市東部病院）とも協調して実施していく必要があると考えている。

### 3 25 年度事業計画

「精神科救急事業」及び「精神科身体合併症医療」ともに従来通り行って行く予定である。併せて身体合併症医療のために院内身体科各科との連携を密にしていく。

#### 4 データ

##### (1) 精神科救急事業

二次救急患者数	診察のみ	0 人
	入院患者数	9 人
三次救急患者数	措置診察のみ	8 人
	措置入院	32 人
	医療保護入院	9 人
平均在院日数		20.0 日
転帰内訳	転院	32 人
	在宅	6 人
	その他	1 人

##### (2) 精神科身体合併事業

受入患者数	73 人	
受入医療機関数	24 病院	
入院患者数	62 人	
平均在院日数	21 日	
転帰内訳	元の病院への転院	52 人
	元の病院以外への転院	7 人
	在宅	1 人
	その他 (死亡/入院中)	2 人

#### 5 その他

現在、精神科病棟の稼働率が低下している。(概ね 60%の稼働率) この傾向は、当院のみならず、他の総合病院の精神科でも起こりつつある。

精神疾患に対するニーズの変化について、今後注視する必要があると考える。

また、横浜市においても、この点について、今後検討して頂くよう要望する。

## Ⅱ 地域医療連携



## 1 地域医療連携事業

### 1 事業概要

レベルの高い急性期医療を提供するため、地域の医療機関とそれぞれ医療機能の分担、連携協力体制を強化し、紹介率・逆紹介率の向上に努める。

また地域医療支援病院として、近隣診療所の支援、および地域医療の質向上のためにも、近隣医師会、登録医等関係医療機関との合同研究会、地域医師を対象としたセミナーを開催し、医療連携を推進する。これからは、機能別病院、地域の訪問看護ステーションや介護事業等関連機関との連携も重要である。

### 2 現状と課題

開院後、紹介率・逆紹介率は右肩上がり推移している。地域医療支援病院として、また病院経営のためにも紹介率・逆紹介率を維持することは必須である。

多くの救急患者を受け入れる3次救急の医療機関として、中区の社会情勢を勘案した、地域でのスムーズな医療連携を、行政や医師会、関係医療機関等、地域全体で構築することが課題である。

### 3 25年度事業計画

#### (1) 紹介率・逆紹介率

開院後、紹介率・逆紹介率、紹介件数・逆紹介件数は順調に推移

(下記「4データ」参照)

#### (2) 関連医療機関

- ・登録医
- ・横浜市南部保健医療圏医療機関
- ・地域医療連携バス連携医療機関
- ・機能別医療機関 等

#### (3) 地域医療機関との交流

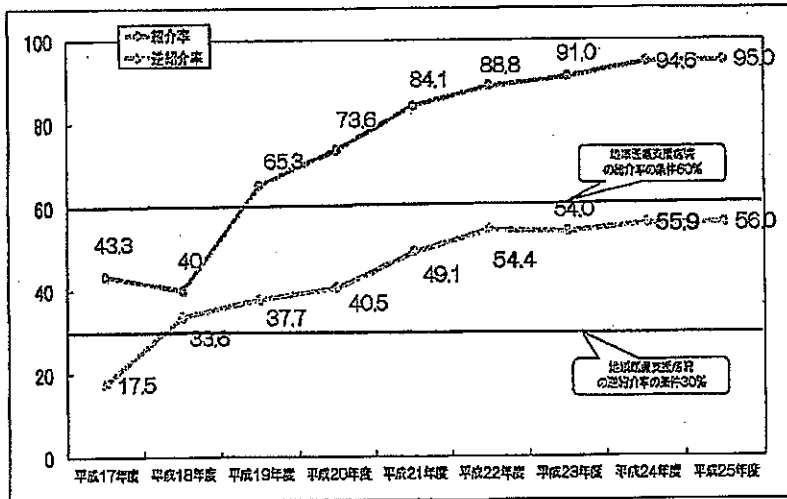
- ・地域医療支援委員会…年4回
- ・大腿骨頭部骨折地域医療連携バス合同委員会…年3回
- ・脳卒中地域医療連携バス合同委員会…年3回
- ・みなとセミナーの開催…年24回
- ・4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会…年1回
- ・地域医療連携推進委員会…年6回
- ・地域連携に携わる交流会（南部医療圏）…年6回
- ・かいごのWa なか在宅看護部会
- ・退院支援看護師交流会
- ・神奈川地域医療連携実務者連絡会
- ・情報の共有化を図るシステムの構築について
- ・精神科救急身体合併症転院事業受入連絡会
- ・日赤医学会総会…年1回
- ・日赤東部ブロック医療連携研究会…年1回（H25年度当院が当番）
- ・日赤東部ブロック医療連携講演会…年1回

(4) その他

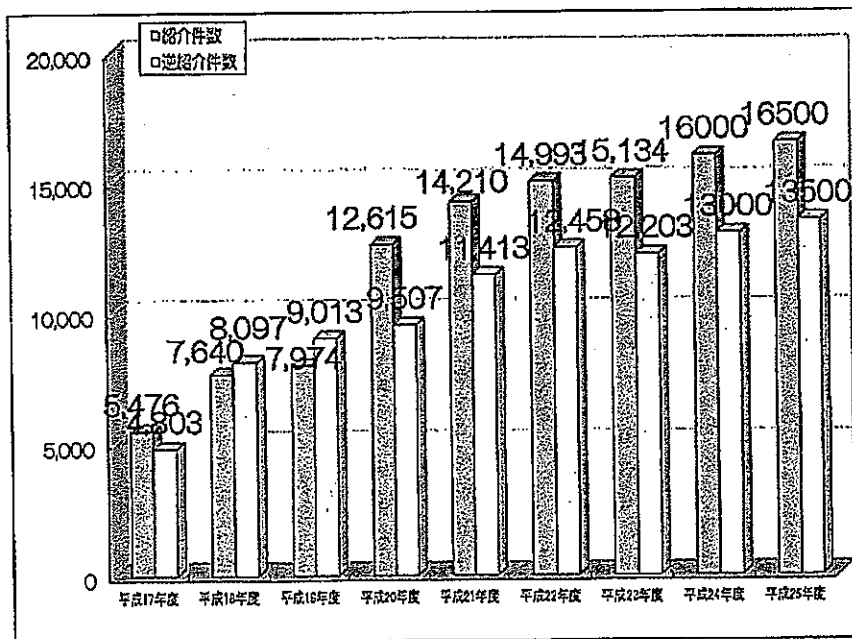
- ・疾患別地域医療連携パスの推進
- ・みなとからの風(地域医療機関向け広報誌)発行…年3回
- ・みなと市民セミナーの開催…年2回

4 データ

紹介率・逆紹介率の推移  
(年度推移)



紹介件数・逆紹介件数の推移  
(年度推移)



### Ⅲ 地域医療の質の向上の取組み

## 1 患者・市民に対する相談・啓発活動事業

### 1 事業概要

赤十字事業の一環として、赤十字安全講習会（赤十字救急法講習会等）があり、これらの講習会を開催することで横浜市民に対して健康・安全への啓蒙活動を行い、健康管理の支援を行う。

### 2 現状と課題

院内で市民対象の安全講習会を行っている他、病院職員を対象とした講習会も毎年行っている。院内で講習会を開催する場合は、指導員となる職員の勤務調整が必要となるが、今後も積極的に安全講習会を開催し、市民、病院職員への啓蒙活動を行う。

### 3 25年度事業計画

救急法講習会、健康生活支援講習会、幼児安全法講習会の開催

### 4 データ（平成24年度予定）

#### (1) 救急法講習会

- ・新規採用看護職員のオリエンテーションの一環で実施
- ・在職職員向けに実施
- ・すでに救急法救急員資格を取得した職員を対象に継続研修会を実施

#### (2) 健康生活支援講習会（短期）

- ・1日看護体験実習で実施
- ・病院ボランティア養成講座で実施
- ・健診センターで生活習慣病予防に関する講習会を実施

#### (3) 救急法等指導員有資格職員数（平成24年4月1日現在）

- ・救急法 10名
- ・水上安全法 2名
- ・健康生活支援講習 4名
- ・幼児安全法 9名

## 2 その他

### (1) 市民委員会

#### ア 委員

	委員名	役職・任命年月日
1	行天 良雄	委員長（医事評論家） 平成 18 年 9 月 11 日
2	保坂 洋夫	委員（神奈川県済生会理事） //
3	向山 秀樹	委員（横浜市中区医師会会長） //
4	荻野 アンナ	委員（作家 慶應義塾大学文学部教授） //
5	前田 次啓	委員（日本発条株式会社最高顧問） //
6	川本 守彦	委員（川本工業株式会社代表取締役社長） //
7	河村 朋子	委員（磯子区医療センター訪問看護ステーション管理者） 平成 21 年 9 月 1 日
8	山田 五男	委員（中区連合町内会長連絡協議会会長） //
9	国広 尚武	委員（横浜市立みなと赤十字病院奉仕団団員）平成 23 年 2 月 1 日

#### イ 平成 25 年度開催計画

年 2 回を予定（上半期、下半期に 1 回ずつ）

(2) 倫理委員会

ア 委員

	委員名	役職・任命年月日
1	小森 博通	委員長(副院長) 平成 17 年 4 月 1 日
2	高橋 誠司	外部委員(元神奈川県立保健福祉大学教授) "
3	田中 治	外部委員(弁護士) 平成 22 年 5 月 6 日
4	中村 陽一	委員(アレルギーセンター長) 平成 17 年 4 月 1 日
5	山本 晃	委員(血液内科部長) "
6	石束 嘉和	委員(精神科部長) "
7	伊藤 理	委員(形成外科部長) "
8	田淵 典之	委員(心臓血管外科部長) "
9	福家 修子	委員(看護部師長) "
10	山浦 絹子	委員(助産師) 平成 24 年 4 月 1 日
11	高橋 弘充	委員(薬剤部長) 平成 17 年 4 月 1 日
12	大堀 浩	委員(総務課長) 平成 23 年 5 月 1 日

- イ 平成 25 年度開催計画  
年 3～4 回開催を予定。

(3) 治験・受託研究

	治験・受託研究の内容	内容・目的
1	医薬品・医療機器	製薬会社からの依頼による臨床試験（フェイズⅠ～Ⅲ）
2	市販後調査	使用成績調査、特別調査、市販後臨床試験
3	自主研究	医師主導の臨床研究
4	適応外使用	医薬品の適応外使用に関する審議
5	治験ホームページ	臨床試験管理センターホームページにより、治験の啓発と依頼者への当院での治験体制、手続き方法等のインフォメーション

## IV 病院管理



## 1 医療安全

### 1 事業概要

医療安全推進課は、当院における医療安全対策と患者の安全確保を推進するために、設置されている医療安全推進室の主管課として、医療安全に関する業務ならびに感染予防・感染対策に関する業務を担う。

### 2 現状と課題

#### (1) 現状

ア 安全文化の醸成：医療安全・感染対策に関する外部・院内講師による全職員対象の講演を実施している。平成23年度、安全に係る総ての研修会の延べ参加者数は、2,213名。前年度より、約6%増加。感染に係る研修会は1,097名であった。講演会の評価は、アンケートに小テストを加え、理解度確認を行っている。

イ 事務局を担当する5委員会の開催にかかわる業務。議事の作成・管理を行っている。出席状況の管理を行い、欠席者には議事録の供覧などによりフォローを行っている。

ウ 安全・感染に関する事例の分析・対策を委員会等の中で行い、必要事項を電子カルテを使い周知している。

エ 安全・感染に関するマニュアル類の更新作業を行っている。

オ 院内急変時のシミュレーション実施。

#### (2) 課題

ア 安全・感染に関する研修会への集積率の向上

イ 委員会の恒常的な欠席者を出さないための働きかけ

ウ マニュアル類の周知

エ コードブルーシミュレーション

### 3 25年度事業計画

#### (1) 安全文化の醸成

医療安全・感染に関する研修会の参加率向上と内容理解の促進。

#### (2) 事務局を担当する5委員会の開催にかかわる業務の遂行。

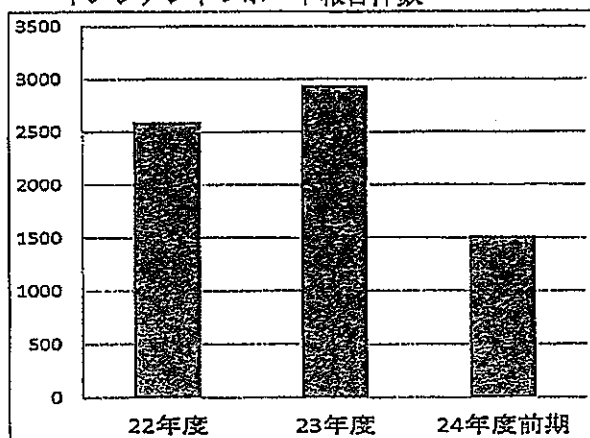
#### (3) マニュアル類の更新管理と周知

#### (4) インシデントレポートの提出促進

#### (5) コードブルーシステム活用シミュレーションと ICLS 研修率向上

### 4 データ

インシデントレポート報告件数



## 2 災害対策事業

### 1 事業概要

いつ災害が発生しても対応できるよう、日本赤十字社救護班を7個班常備し、災害医療訓練を実施している。また、神奈川DMAT指定病院でもあるため、DMAT隊員の訓練も実施している。

さらに日本赤十字社内の訓練だけではなく、地方自治体等が主催する防災訓練にも積極的に参加し、他機関との連携を深めている。災害医療拠点病院でもあるため、災害時の傷病者の受入れ体制を整えている。

### 2 現状と課題

救護班員、DMAT隊員は年間を通じて様々な訓練や研修会に積極的に参加し、能力・技術向上に努めている。しかし、DMAT隊員数が少ないため隊員数を増やすことが課題である。厚生労働省が開催するDMAT隊員養成研修会は参加が抽選のため、毎回申し込みをしているが受講に至らず増員できない現状である。特に現在は調整員の登録が1名のみで、調整員が確保できないとチーム編成ができなくなるので、調整員の増員が必要である。

### 3 25年度事業計画

- ・当院を会場に総合防災訓練を実施予定。(平成25年10月実施予定)
- ・日本赤十字社、地方自治体等の防災訓練への参加。
- ・DMAT隊員養成研修に引き続き申込み、隊員の増員。

### 4 データ

救護班(医師1、看護師3、薬剤師1、主事2)を7班、予備として3班を編成している。

DMAT隊員は医師4名、看護師3名、調整員1名が登録。

### 3 患者サービス事業

#### 1 事業概要

- (1) 患者サービスの一環として、病院内でのイベント（コンサートや寄席等）、敷地内のガーデニング、車いす清掃、外来患者さんに対する案内等を行っています。これらはみなと赤十字病院奉仕団の病院ボランティアの方々にご協力をいただき行っている。当院では病院ボランティアの養成講座を年1～2回開催し、病院ボランティアの育成に努めている。
- (2) サービス向上委員会において、「患者満足度調査」「みなさまの声」を実施し、分析を行っている。

#### 2 現状と課題

- (1) 院内コンサートや病棟行事のお手伝い等は、それぞれの曜日時間に合わせて行っている。外来患者への案内は月～金曜日までの午前中に行っている。ガーデニングは毎月1～2回の午前中に実施している。これらは病院ボランティアの方々の協力が無いと難しいことなので、今後もボランティアの養成と、活動しやすい環境づくりを進めていく。
- (2) 「患者満足度調査」の分析から、職員（特に医師）の接遇に課題があることが判明した。今後は、職員の接遇を改善するために、研修等を実施する必要がある。

#### 3 25年度事業計画

- ・病院ボランティアの育成強化
- ・ボランティア活動をしやすい環境づくり
- ・病院職員と病院ボランティアが協力して、よりよい患者サービスの提供
- ・「みなさまの声」「患者満足度調査」「待ち時間調査」等の実施。

#### 4 データ

- ・平成23年度奉仕団員総数 91名（男19名、女72名）
- ・ANAよりスズランの葉贈呈を受け、入院患者さんへの配布手伝い（2名）
- ・院内コンサート年3回開催し入院患者さんへの会場案内（延47名）
- ・季節行事  
七夕（6名）、夏祭り（7名）、クリスマス会（4名）、節分（4名）、ひな祭り（4名）
- ・院内図書館 本の整理（月2回 延48名）
- ・救護資材の整理・小型発電機点検（月1回 延41名）
- ・病棟内車いす清掃（月2回 延120名）
- ・緩和病棟（毎週金曜日2名）  
行事参加（紫陽花の会5名、秋の音楽会5名、クリスマス会5名）
- ・ガーデニング（17回延170名）
- ・パッチワークひざ掛け作成（月2回 延120名）

## V 職員等研修計画

31	教育担当者	講義、演習	レベルⅢ看護職員
32	感染管理研修	感染対策・管理について	全職員
33	安全管理研修	安全管理について	全職員
34	リスクマネージャー研修	リスクマネジメントについて、事例検討	院内のリスクマネージャー
35	医療機器安全管理研修	医療機器の安全管理について	医療職
36	医薬品安全管理研修	医薬品の安全管理について	医技職
37	こころのケア研修	こころのケアについて、演習	赤十字教職員
38	事務系職員 主事（入職1年次）研修	「病院のしくみ」「接遇」「医療・職業倫理」「個人情報規程」「当直実務研修」「目標管理」ほか	新規採用職員
39	事務系職員 主事（入職2年次）研修	「目標管理」「診療報酬、保険前払」「会計の基礎」「医療関連法規」「コミュニケーションスキル」ほか	入職2年目職員
40	事務系職員 中堅職員研修	「目標管理」「プレゼンテーション」「コミュニケーションの応用」ほか	採用後3～10年前後の職員
41	事務系職員 係長研修	「目標管理」「労務管理の基礎」「折衝・調整のコミュニケーション」「経営分析」ほか	現任事務系係長
42	事務系職員 副部長・課長研修	「目標管理」「労務管理の知識」「コーピング」「部下育成」ほか	現任事務系課長
43	新人オリエンテーション	講演会「接遇について」「個人情報保護法について」「電子カルテの概要」等	新規採用職員
44	新規採用職員基礎研修会（支部）	赤十字職員としての意識の醸成、勤務に必要な知識の習得、参加相互の交流	初年度採用職員
45	赤十字セミナー（支部）	赤十字の組織と事業の概要、業務遂行に必要な基礎知識の習得、参加者の交流	新規採用職員研修会や中堅職員研修会に参加できなかった職員
46	現任係長研修会（支部）	部下の育成指導、仕事の進め方、問題解決、リーダーシップ等	係長または担当職員
47	新任課長級職員研修会（合同）	部下の育成指導、仕事の進め方、問題解決、リーダーシップ等	3県支部・施設の新任課長級職員
48	新任課長級職員研修会（合同）	赤十字を取り巻く世界情勢の理解、管理者としての認識、問題解決能力の向上	3県支部・施設の新任課長級職員
49	勤務評定者研修会（本社）	勤務評定制度を公正に実施するため、制度の目的・仕組みについての理解、正しい評定手法等の習得	新任課長および管理者
50	中堅職員研修会（支部）	赤十字事業の現状と課題を踏まえ、中堅職員としての自覚と責任を持たせる。職務遂行に必要な能力の向上	採用後5～10年前後の職員
51	広報研修会（支部）	事業の透明性確保と赤十字活動への理解・共感を深め、広報の基礎を学ぶ	広報委員など
52	新規採用職員フォロー研修会Ⅰ-①（支部）	新規採用研修会の成果と職場内におけるOJTの成果を業務にいかんにかしてきたかの確認	新規採用職員基礎研修会参加者
53	新規採用職員フォロー研修会Ⅰ-②（支部）	新規採用研修会の成果と職場内におけるOJTの成果を業務にいかんにかしてきたかの確認	新規採用職員基礎研修会参加者
54	新規採用職員フォロー研修会Ⅰ-③（支部）	新規採用研修会の成果と職場内におけるOJTの成果を業務にいかんにかしてきたかの確認	新規採用職員基礎研修会参加者
55	ライフプランセミナー（支部）	定年後の生活設計に役立つ情報や計画の立て方	赤十字施設に勤務する65歳以上の職員、業務担当者
56	赤十字病院臨床研修医研修会（本社）	各赤十字病院で研修を受けている研修医に対し、赤十字に触れる機会をもち、赤十字事業に対する理解を深め、研修終了後赤十字病院への勤務を勧奨する	赤十字病院で臨床研修を行なっている2年次生
57	プログラム責任者養成講習会	円滑かつ効果的な卒後臨床研修の助言・指導その他援助が行なえるようにする	臨床研修指定病院に勤務する医師で、実際にプログラムの作成・立案に関わっている医師
58	臨床研修指導医養成講習会	講演会等	臨床研修指定病院に勤務する医師で、実際に臨床研修への指導に関わっている7年目以上の医師

1 院内職員研修計画

	研修(勉強会)名称	内容	対象者
1	看護職のキャリアについて	講義、演習	レベルI看護職員
2	医療と診療情報	講義、グループワーク	レベルI看護職員
3	赤十字と看護倫理I	講義、事例検討	レベルI看護職員
4	看護とコミュニケーションI	シミュレーション、ロールプレイング	レベルI看護職員
5	業務シナウド研修	業務の内容	レベルI看護職員
6	医療チームの一員として求められる課題	講義、フォローアップ研修	レベルI看護職員
7	フィジカルアセスメント入門	講義、演習	レベルI看護職員
8	基礎看護技術(観察)多重課題演習	看護技術	レベルI看護職員
9	基礎看護技術(採血と静脈内注射)多重課題演習	多重課題、時間切迫シミュレーション	レベルI看護職員
10	新規採用職員基礎研修(赤十字看護課程師範院研修)	講義	レベルI看護職員
11	基礎看護技術(観察力)	多重課題	レベルI看護職員
12	看護のフィジカルアセスメント	講義、演習	レベルII看護職員
13	看護と診療情報	講義、演習	レベルII看護職員
14	看護とコミュニケーションII	講義、演習	レベルII看護職員
15	赤十字と看護倫理II	講義、ワーク	レベルII看護職員
16	ケーススタディ	グループワーク、事例発表会	レベルII看護職員
17	リーダーシップとメンバーシップ	講義、グループワーク、仕事研究発表会	レベルIII看護職員
18	看護倫理III	講義、グループワーク、事例検討	レベルIII看護職員
19	実地指導者	講義、グループワーク、事例検討	レベルIII看護職員
20	実習指導	講義、グループワーク、事例検討	レベルIII看護職員
21	看護研究(入門)	研究講義、論文抄読、研究指導、発表会	レベルIII看護職員
22	急性期患者支援コース	講義、グループワーク、体験実習	レベルIII看護職員
23	がん性疼痛を抱える患者のケア	講義、グループワーク、演習、体験実習	レベルIII看護職員
24	認知症ケア	講義、グループワーク、ケースレポート発表会	レベルIII看護職員
25	口腔ケア	講義、グループワーク	レベルIII看護職員
26	スキンケア、褥瘡ケア	講義、グループワーク	レベルIII看護職員
27	精神保健看護	講義、ディスカッション、ロールプレイなどの体験学習	レベルIII看護職員
28	赤十字看護課程修業完成研修	講義、実技	レベルIII看護職員
29	マネジメント入門	講義、演習、管理体制学習	レベルIII看護職員
30	マネジメント実践	講義、演習、問題解決課程	レベルIII看護職員

## 2 院外学生研修計画（看護部）

### 1 事業概要

平成 17 年 4 月 1 日病院開業から横浜市立病院、赤十字病院として、看護基礎教育実習や、卒後教育の認定看護師や専門看護師等の研修を引き受けている。

### 2 現状と課題

- (1) 現在、看護基礎教育は 1 大学、4 専門学校を受け入れている。さらに来年度からは 1 大学を増やすこととなっている。

看護専門学校によっては、教員が指導を実習指導者に任せきりにして現場に負担がかかっている状況がある。教員と実習指導者の役割の違いを明確にして、教員が実習指導者との連携の上で、実習に責任をもって取り組む状況の整備等が必要である。学校による指導の差で現場の臨床指導者は戸惑いが大きくなる。

- (2) 年間 330 名、週単位で最大 45 名の学生を受け入れている。人員の制約は休憩室の不足が 1 つの原因である。休憩室が確保できると現状よりは多くの人を受け入れられると考える。ただし、1 部署の実習人員は適切な実習環境の提供という視点で 5 人が上限と考えている。

- (3) 卒後教育は認定看護師の養成課程の実習で、実習者の看護過程展開能力に課題があり、指導に苦慮することがある。実践家として経験を積んだ人がスペシャリストとしての学習をする際の、基本的な看護を可視化する力、ロジカルに思考を整理し表現することが苦手で、学習者自身がそれを認識し自己修正する過程を支援するために、受け入れ側として多くの支援をしている。

- (4) 実習指導者研修課程の修了者の増員を目指している。しかし、課程が少なく、希望しても落ちる場合も多く、毎年 2 名程度の養成となっている。実習指導者研修修了者の確保が大きな課題である。

### 3 25 年度事業計画

看護基礎教育の次年度実習の受け入れ計画は、毎年 6 月に全部の実習予定学校に参集いただき、日程等の調整を直接学校同士で行ってもらっている。来年度は 2 大学、4 看護専門学校の看護基礎教育の実習受け入れを計画した。

卒後教育における認定看護師、大学大学院（修士）の実習計画は年度明けに決定する。実習指導者研修課程の受講者を推薦していく。

### 4 データ

「23 年度（実績）、24 年度（現在）、25 年度（予定）の看護基礎教育実習、卒後教育実習受け入れ一覧」（※別紙資料参照）





平成23年度卒後教育

卒後	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月			
	25	1	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	31	
日赤大学院国際助産学実習			2	2	2	2																				
日赤看護大学大学院(小児看護学)									1	1	1	1														
日赤看護大学大学院(小児看護学)									1	1	1															
日赤看護大学フロンティアセンター(認知症看護)																										
国立保徳福祉大実践センター認定(急性期看護支援)																										
国立保徳福祉大実践センター認定(小児類型)																										
日赤看護大学大学院(看護教育)																										
国立保徳福祉大学実践センター認定(管理者養成課程)	1																									
合計	1		2	2	2	2			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

平成23年度 臨地実習受入実績報告書

横浜市立みなと赤十字病院

養成所名	学年	実習人員	延実習時間	実習期間	備考
神奈川県立よこはま看護専門学校 (神奈川県横浜市旭区中尾1-5-1)	3	5	440	5/9~5/25	母性看護学
	3	2	36	5/11~5/13	在宅看護論
	3	5	440	5/30~6/15	母性看護学
	3	2	36	6/1~6/3	在宅看護論
	1	25	300	6/16~6/17	基礎看護学Ⅰ-1
	2	20	1760	6/20~7/6	成人看護学Ⅰ
	3	5	441	7/11~7/28	母性看護学
	3	2	36	7/12~7/14	在宅看護論
	1	24	720	8/29~9/2	基礎看護学Ⅰ-2
	3	4	352	9/5~9/22	母性看護学
	3	2	36	9/20~9/22	在宅看護論
	3	4	364	9/26~10/13	母性看護学
	3	2	42	9/27~9/29	在宅看護論
	3	2	42	10/31~11/2	在宅看護論
	3	4	352	10/31~11/17	母性看護学
	3	8	632	10/31~11/16	統合実習
	3	9	819	11/21~12/7	統合実習
	3	5	440	11/21~12/8	母性看護学
3	2	42	11/21~11/24	在宅看護論	
2	20	1556	1/10~1/26	成人看護学Ⅱ	
1	24	2094	2/6~2/22	基礎看護学Ⅱ	
横浜市医師会看護専門学校 (神奈川県横浜市港北区菊名4-4-22)	3	5	675	5/9~6/2	成人看護学
	3	5	337.5	6/6~6/16	小児看護学Ⅱ
	3	5	525	6/6~6/23	老年看護学
	3	5	337.5	6/20~6/30	母性看護学Ⅱ
	3	5	332.5	7/4~7/14	小児看護学Ⅱ
	2	10	817.5	9/5~9/21	基礎看護学Ⅱ
	3	5	245	10/3~10/13	小児看護学Ⅱ
	3	5	600	10/3~10/27	成人看護学
	3	5	262.5	10/17~10/27	母性看護学Ⅱ
3	5	280	11/7~11/17	小児看護学Ⅱ	
神奈川県立衛生看護専門学校 (神奈川県横浜市中区根岸町2-85-2)	3	5	258	5/30~6/9	成人看護学(周手術期)
	3	5	270	6/27~7/7	成人看護学(周手術期)
	3	5	198	7/19~7/28	成人看護学(周手術期)
	3	5	240	10/31~11/10	成人看護学(周手術期)
横浜市病院協会看護専門学校 (神奈川県横浜市港南区港南台3-3-1)	3	5	203	7/19~7/28	小児看護学
	1	5	390	1/23~2/9	基礎看護学Ⅱ
日本赤十字看護大学 (東京都渋谷区広尾4-1-3)	2	2	270	5/30~6/22	国際保健助産学
	2	19	123.5	8月5日	看護援助学(レベルⅠ)
	2	18	1107	9/12~9/27	看護援助学(レベルⅡ)
	4	8	728	11/7~11/25	看護学総合実習(基礎・成人)
1	22	1104.5	1/10~1/19	看護援助学(レベルⅠ)	
合計		330	20284.5		



平成24年度卒業後教育

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月			
	7	14	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11
日赤大学院国際進学実習																										
日赤看護大学大学院 (小児看護学)																										
県立保健福祉大学実践教育センター 認定(急性期重症者支援)																										
県立保健福祉大学実践教育センター 認定(がん支援)																										
県立保健福祉大学実践教育センター (高齢者支援課程)																										
卒業																										
合計																										

平成25年度 看護基礎教育 実習希望一覽表 2012.11.1現在

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
母																									
小																									
中																									
高																									
大																									
計																									
在籍																									
施設																									
合計																									

## 2 院外学生研修計画（薬剤部）

### 1 事業概要

- (1) 薬科大学実務実習（4大学と個別契約）
- (2) JICA「病院薬学」コース研修（国際医療技術財団）
- (3) 病院・診療所実務実習（神奈川県薬剤師会）

### 2 現状と課題

#### (1) 薬科大学実務実習

現在、横浜薬科大学、東京薬科大学、星薬科大学、帝京大学薬学部の4校と1期11週間、1年3期の薬科大学5年時における病院実務実習を各期4名、年12名を受け入れ、実務実習を行っている。現在認定の指導薬剤師4名を中心に一般調剤から病棟業務にいたるまで、コアカリキュラムに準じた実習を実施しているが、業務を行いながら教育を平行して行う事は人的リソース不足の中、苦しい面もあるが、当院の様な病院での薬剤師の育成は社会的責務も大きく、各個人の教育に対するスキルアップに取り組むながらさらに多くの実習生の受入を可能としたいと考えている。

#### (2) JICA 研修

毎年、国際医療技術財団の依頼により政府開発援助（ODA）の一環として開発途上国の病院薬剤師を対象とした病院薬学の実務に関する技術と知識について講義および1週間の実習を受け入れている。学生実習と平行しての実習のため業務に負荷に係る面もあるが、国際貢献と当院の薬剤師のレベルアップのためにも積極的に受け入れていきたいと考えている。また、これを通じて薬剤部員の英会話の習熟にも務めたい。

#### (3) 病院・診療所実務実習

毎年、神奈川県病院薬剤師会と神奈川県保険福祉局の依頼により薬剤師の資質向上のため1月の1週間、2名から3名の他病院の薬剤師の実習を受け入れている。本来は当院の薬剤師も他病院に実習に出したい所であるが、マンパワーの問題から当院の薬剤師が参加したことはない。

### 3 実績および25年度計画

	23年度	24年度	25年度
学生実務実習 (1期)	4名	4名	4名
学生実務実習 (2期)	4名	4名	4名
学生実務実習 (3期)	5名	4名	4名
JICA	4名	4名	4名
県病棟実習	2名	2名	2名

### 3 臨床研修事業

#### 1 事業概要

平成16年度に新医師臨床研修制度が開始され、当院も平成17年4月に開院して以来、医師臨床研修事業に取り組み、将来希望する診療科に関する専門知識に留まらず、すべての患者の初期診療が適切に行える医師の育成を目指し、コアカリキュラムの充実を図ってきた。また平成24年度から歯科臨床研修も開始し、医科とともに優れた医療人輩出を目指して研修を行っている。

#### 2 現状と課題

23年度より臨床教育研修センターを開設、昨年度より専従事務職員を配置して臨床研修プログラム開発とその評価機能を大幅に強化した。開院して以来、救急車の搬送台数も全国有数となり、重症患者の受け入れ体制も整っているため、必修診療科はもちろんのこと救急医療を学びたい各地の医学生からの支持を受け、採用試験受験者も年々増加している。歯科研修も地域支援病院として智歯関連の疾患や口腔内の粘膜病変、腫瘍性病変、嚢胞性病変、顎関節症、炎症性病変などに対応している一方で、救命救急センターから運ばれる顎顔面部の外傷症例や入院患者の口腔ケアにも対応しており、幅広い分野の研修ができる魅力をもっている。

#### 3 25年度事業計画

25年度より研修医の募集人数が6名から7名に増員されることが承認され、より意識・意欲の高い医学生の受入と、豊かな知識と優しい心をもつ医療人を輩出すべく、研修内容のより一層の充実と採用活動の強化を目指す。様々な外科系の手技に対応すべく24年10月にシミュレーターセンターを開設。技術指導の充実を図る。また大学病院から受け入れる研修医数も増員予定であり、当院採用の研修医も含め互いが切磋琢磨する機会を積極的に提供する。

#### 4 データ

(医学生) 見学・実習者年間のべ人数

平成21年	平成22年	平成23年
83	98	100

(研修医) 当院採用人数

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
6	6	6	7



## VI 外部委託業務

## 1 外部委託（総務課）

### 1 対象業務

別紙「外部業務委託一覧表（総務課分）」のとおり。

### 2 現状と課題

横浜市による実地調査でも毎年高い評価を受けている。保護者の評価も良好である。

### 3 25年度事業計画

平成25年度は現状を継続する。

外部委託業務(総務課)

別紙1

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者	
1	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	会社名	株式会社 まじろコーポレーション

## 1 外部委託（施設課）

### 1 対象業務

別紙「外部業務委託一覧表」のとおり。

施設管理業務・警備保安業務・清掃業務・一般廃棄物収集運搬処理・特別管理産業廃棄物収集運搬処理業務・医療ガス供給業務・ナースコール設備保守点検

### 2 現状と課題

#### (1) 入札の方法、

日本赤十字社の資格審査に基づいた一般競争入札  
公告については横浜市立みなと赤十字病院ホームページに掲載

#### (2) 委託業務に関する評価、

「委託業務先企業評価シート」により評価を行う

#### (3) 契約更新に関する考え方

評価シートにより総合評価を行う。

### 3 25年度事業計画

#### (1) 施設管理業務

東日本大震災以降、災害拠点病院としての機能維持が大きな課題として重要性が増しています。大規模な停電や断水の発生時にも機能不全に陥ることがないように、自家発電機や無停電装置をはじめとする設備に対して、単純に保守、修理・更新するのみでなく経費対効果を考慮した適切な修繕計画と保守管理にあたる。

#### (2) 警備保安業務

病院という特殊性を踏まえ院内規則、消防法、警備業法を順守し、利用目的を十分に理解把握し、患者、来院者が快適にかつ安全に利用できるよう管理にあたる。

#### (3) 清掃業務

病院の特殊な事情や条件を考慮、配慮し、常に衛生的かつ良好な医療環境の維持に努めるとともに院内感染予防を重視した作業を行う。

#### (4) 一般廃棄物収集運搬処理

廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令を遵守し、処理業務の遂行にあたる。また、廃棄物の抑制及び廃棄物の資源化、再資源化に努める。

#### (5) 特別管理産業廃棄物収集運搬処理業務

感染性廃棄物処理についてはマイクロ波滅菌方式を引き続き継続し、廃棄物を適正に処理し感染事故の防止に努める。また、廃棄物の抑制及び廃棄物の資源化、再資源化に努める。

(6) 医療ガス供給業務

災害拠点病院として維持できるよう引き続き安定供給できるよう努める。緊急時は1時間以内で供給できるようにする。また災害時にも充填可能な外部電源を使用しないタンクローリー車を配車するようにする。

(7) ナースコール設備保守点検

院内に設置されているナースコール設備の保守、及び迅速な修理等を行い常に正常に機能するよう対応する。

## 外部委託業務(施設課)

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者	
1	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	会社名	株式会社 丸誠
2	警備業務	院内外の警備業務	会社名	国際警備 株式会社
3	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	会社名	株式会社 丸誠
4	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	会社名	株式会社 神奈川保健事業社
5	一般廃棄物収集運搬業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	会社名	株式会社 神奈川保健事業社
6	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	会社名	株式会社 トキワ薬品化工
7	医薬品(医療ガス)供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	会社名	株式会社 イワサワ
8	ナースコール設備保守点検	ナースコール設備保守点検	会社名	株式会社 ケアコム

## 外部委託（調度課）

### 1 対象業務

別紙1「外部業務委託一覧表（調度課分）」のとおり。

### 2 現状と課題

受託会社の請け負う業務について関係部署長による評価を毎年実施し、現状を把握するとともに、受託会社と面談を行い改善計画の提出を求めている。

改善計画については、関係部署で再評価を行い、契約更新の判断としている。

また、各受託会社のスタッフが、医療法第6条に基づく「医療に係る安全管理」「従業員に対する院内感染対策」の研修会への出席率が非常に低いため、この対応が求められるところである。

外部業務委託の契約更新の方法は区々となっているが、業務の質を担保しつつ、委託料金の低減を図ることが肝要である。

### 3 25年度事業計画

受託会社の評価結果が著しく悪く、改善の見込みがない受託会社は、総合評価入札により25年度から変更することとした。（25年度の業務委託先は別紙2のとおり）

医療法第6条に基づく「医療に係る安全管理」「従業員に対する院内感染対策」の研修会への出席率の向上をはかるため、各受託会社と全従業員を参加させる旨の覚書を締結した。

## 外部委託業務(調度課)

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者	
			会社名	
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	会社名	ハーベスト 株式会社
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	会社名	日本ステリ 株式会社
3	検体検査業務	検体検査業務	会社名	株式会社 ビー・エム・エル
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	会社名	株式会社 柴橋商会
5	寝具貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具貸借業務、洗濯全般業務	会社名	株式会社 ナビ・ム・ランドリー
6	白衣等リース業務	看護師の白衣及びタオルのリース	会社名	株式会社柴橋商会
7	白衣等リース業務	看護師以外の白衣のリース	会社名	株式会社ナビ・ム・ランドリー
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	会社名	ホスピタルパートナーズ株式会社
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務	会社名	東邦薬品株式会社
10	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	会社名	株式会社 アイ・エム・ビー・センター
11	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	会社名	株式会社 アイ・エム・ビー・センター
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	会社名	株式会社 アイ・エム・ビー・センター
13	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	会社名	株式会社 日本教育クリエイト



外部委託業務(調度課 25年度分)

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者	
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	会社名	エームサービス 株式会社
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	会社名	日本ステリ 株式会社
3	検体検査業務	検体検査業務	会社名	株式会社 ビー・エム・エル
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	会社名	株式会社 柴橋商会
5	寝具貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具貸借業務、洗濯全般業務	会社名	株式会社 サビ・ム・ランドリー
6	白衣等リース業務	看護師の白衣及びタオルのリース	会社名	株式会社柴橋商会
7	白衣等リース業務	看護師以外の白衣のリース	会社名	株式会社サビ・ム・ランドリー
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	会社名	ホビ・クハートナース株式会社
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務	会社名	京邦薬品株式会社
10	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	会社名	株式会社 アイ・エム・ビー・センター
11	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	会社名	株式会社 アイ・エム・ビー・センター
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	会社名	株式会社 アイ・エム・ビー・センター
13	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	会社名	株式会社 日本教育クリエイト

## **VII 情報管理**

## 1 情報管理

### 1 管理責任体制・安全対策等

#### (1) 横浜市立みなと赤十字病院電子カルテシステム運用管理規定

#### (2) 安全対策システム

##### サーバー室の管理（入退室の規制）、防災防犯対策

サーバー室の入退室管理については、出入管理により個人カードを用いて入室が制限しております。また、サーバー室の隣に情報事務室があり、事務室内を通らなければ、サーバー室に入室することは出来ず、さらに事務室内には 24 時間 365 日人員を配置しており、防災および防犯に努めています。

#### (3) 個人情報の管理責任体制

院長を病院管理者とし、個人情報管理者を事務部長、各部署長を個人情報補助管理者と位置づけし管理体制をとっています。

#### (4) アクセス感知

##### 利用者 ID とパスワード管理

ア 利用者は、初期登録時において運用責任者より封印した紙で配布された中のパスワードを一時利用し、早期に医療情報課において電子カルテシステム利用に関するオリエンテーションを受け、自らのパスワードを「パスワード変更ツール」にて設定する。

イ 自分のパスワードは、決して他人または他のグループに口外しない。

ウ パスワードを紙などに記述して記録しない。

エ パスワードをファンクションキーなどに登録しない。

オ 自分の利用者 ID とパスワードを他の者に教えることによりシステムの利用権限を他人に貸与しない。

キ パスワードは、以下の条件で付与する。

- ・パスワードに使用するキャラクタは、アルファベット（大文字・小文字）、数字をそれぞれ最低限 1 文字以上用い 4 文字以上で使用する。

- ・通常システムにログインする際には、パスワードを利用する。

ク パスワードには、以下のような推測可能な用語を設定してはならない。（パスワードの禁則）

- ・年月日、曜日、その他日付に関するもの

- ・姓名、名字、イニシャル、ニックネームなど

- ・医療機関名、部署名、それらに関するもの

- ・電話番号やそれに類似するもの

- ・ユーザ識別子、ユーザネーム、グループ ID、他のシステムの識別子

ケ 利用者のパスワードは登録してから有効期限の 60 日が経過する日までに新しいパスワードに変更する。

## VIII 職員



職員配置予定数

職 種	配置予定	内 訳			備 考
		常勤	非常勤	派遣職員等	
管 理 部 門	事 務 職 員	173	58	10	105
	技 術 職 員	4	4		
	運 転 手	0			
	ボイラー技師	0			
	電話交換手	2	1		1
診 療 部	医 師	163	161	2	
	歯 科 医 師	3	3		
看 護 部 門	看 護 師	628	608	20	
	准 看 護 師	2	2		
	看 護 助 手	65	15	50	
	事 務 職 員	20	2	2	16 保育1含む
健 診 部 門	看 護 師	3	3		
	事 務 職 員	7	2		5
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	5	5		
	精 神 保 健 福 祉 士	3	3		
	看 護 師	5	5		
	事 務 職 員	6	3		3
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	30	30		
	診 療 放 射 線 技 師	29	29		
	臨 床 検 査 技 師	35	35		
	理 学 療 法 士	14	14		
	作 業 療 法 士	7	7		
	言 語 聴 覚 士	4	3	1	
	マ ッ サ ー ジ 師	1	1		
	臨 床 工 学 技 士	9	9		
	視 能 訓 練 士	2	2		
	歯 科 衛 生 士	4	4		
	臨 床 心 理 士	1	1		
	管 理 栄 養 士	6	6		
	栄 養 士	0			
	調 理 師	6	6		
事 務 職 員	1		1		
その他	3	1	1	1 アレルギーセンター事務 3	
合 計	1241	1023	87	131	

2 診療科部門責任体制

	部門名	配匠予定	職名	氏名
1	救命救急センター	1	センター長	八木 啓一
			副センター長	欠
2	救 急 部	5	診療科部長	伊藤 敏幸
			副部長	欠
3	集 中 治 療 部	8	診療科部長	武居 裕洋
			副部長	奈良 岳志
4	糖尿病内分泌内科	5	診療科部長	渡辺 幸之
			副部長	欠
5	血 液 内 科	3	診療科部長	山本 晃
			副部長	欠
6	腎 臓 内 科	3	診療科部長	中村 太一
			副部長	欠
7	膠原病リウマチ内科	3	診療科部長	森山 裕之
			副部長	欠
8	緩和ケアセンター	2	診療科部長	大谷 洋一
			副部長	欠
9	呼 吸 器 内 科	6	診療科部長	田ノ上 雅彦
			副部長	河崎 勲
10	消 化 器 内 科	9	診療科部長	石村 明彦
			副部長	河村 真宏
11	肝・胆・膵内科	1	診療科部長	先田 信哉
			副部長	欠
12	心臓不整脈先進診療科	9	診療科部長	沖重 薫
			副部長	青柳 秀史
13	心臓血管先進診療科	1	診療科部長	欠
			副部長	倉林 肇
14	神 経 内 科	4	診療科部長	田中 宏明
			副部長	欠
15	アレルギーセンター科	2	診療科部長	中村 陽一
			副部長	遠藤 順治
16	精 神 科	7	診療科部長	石原 嘉和
			副部長	鳴津 泰
17	小 児 科	10	診療科部長	菊池 傳行
			副部長	欠
18	小児神経科	1	診療科部長	大澤 由紀子
			副部長	欠
19	乳 腺 外 科	2	診療科部長	酒本 大輔
			副部長	欠
20	食 道・胃 外 科	4	診療科部長	小尾 芳郎
			副部長	欠
21	大 腸 外 科	1	診療科部長	長谷川 誠司
			副部長	欠
22	鏡視下手術外科	1	診療科部長	長田 俊一
			副部長	欠
23	肝・胆・膵外科	1	診療科部長	杉田 光隆
			副部長	欠
24	整 形 外 科	7	診療科部長	小森 博達
			副部長	品田 雅生
25	整形・脊椎外科	1	診療科部長	佐々木 真一
			副部長	欠
26	整形・関節外科	1	診療科部長	浅野 浩司
			副部長	欠
27	形 成 外 科	3	診療科部長	伊藤 理
			副部長	欠
28	脳神経外科	4	診療科部長	高木 信
			副部長	欠
29	頭頸下垂体外科	1	診療科部長	持松 泰彦
			副部長	欠
30	呼 吸 器 外 科	1	診療科部長	下山 武彦
			副部長	欠
31	心臓血管外科	4	診療科部長	田淵 典之
			副部長	欠
32	皮 膚 科	3	診療科部長	並木 剛
			副部長	欠
33	泌 尿 器 科	5	診療科部長	土屋 よとし
			副部長	滝沢 明利
34	産 婦 人 科	6	診療科部長	多田 聖昭
			副部長	和知 敬樹
35	婦人腫瘍外科	1	診療科部長	多田 聖昭
			副部長	欠
36	眼 科	2	診療科部長	権野 めぐみ
			副部長	欠
37	耳 鼻 咽 喉 科	2	診療科部長	新井 恵洋
			副部長	欠
38	リハビリテーション科	2	診療科担当部長	頭井 雅信
			副部長	日野 太郎
39	放射線診断科	2	診療科部長	大谷 洋一
			副部長	遠藤 英穂
40	放射線治療科	1	診療科部長	大谷 洋一
			副部長	沢 成行
41	麻 酔 科	5	診療科部長	西村 一彦
			副部長	欠
42	歯科口腔外科	3	診療科部長	向山 仁
			副部長	生田 稔
43	病 理 部	2	診療科部長	熊谷 二朗
			副部長	欠
44	健 診 部	1	診療科部長	伊藤 葉奈子
			副部長	欠
45	臨床研修医	20	初期研修	13
			後期研修	7
	診 療 科 計	166		

3 看護部門責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	助手
1	看護部	10	看護部長	鈴木 恵子	
			副部長	3	
			師長	2	
			係長		2
2	外来	35	師長	1	
			係長	2	6
3	手術室	34	師長	1	
			係長	1	1
4	8階病棟	28	師長	1	
			係長	1	3
5	7階A病棟	32	師長	1	
			係長	2	5
6	7階B病棟	32	師長	1	
			係長	1	4
7	7階C病棟	32	師長	1	
			係長	1	4
8	7階D病棟	32	師長	1	
			係長	1	4
9	6階A病棟	32	師長	1	
			係長	1	5
10	6階B病棟	32	師長	1	
			係長	1	4
11	6階C病棟	28	師長	1	
			係長	1	4
12	6階D病棟	28	師長	1	
			係長	1	5
13	精神科病棟	26	師長	1	
			係長	1	2
14	産婦人科病棟	36	師長	1	
			係長	1	3
15	小児科病棟	38	師長	1	
			係長	1	2
16	救急病棟	42	師長	1	
			係長	1	4
17	集中治療室	56	師長	1	
			係長	3	2
18	緩和ケア病棟	24	師長	1	
			係長	欠	2
19	透析室	26	師長	1	
			係長	0	3
20	夜勤専従		師長		
20	看護教育		係長		
21	看護部付	27	師長		
			係長		
	看護師計	630			
	助手・クラーク計	85			65
	看護部計	715			



#### 4 健診部門責任体制

4	健診センター	10	センター長	伊藤 美奈子	医師の兼務
			課長	1	健診課
			係長	欠	健診係

\*非常勤も含める。派遣のクラークも含める。

5 連携部門責任体制

1	医療連携センター	19	センター長	持松 泰彦	医師の兼務
			課長	欠	地域医療連携課
			係長	1	地域医療連携係
			課長	欠	医療社会事業課
			係長	1	医療社会事業係

\*非常勤も含める。派遣のクラークも含める。

6 検査・医療技術部門責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1	薬剤部	31	部長	高橋 弘充	
			副部長	1	
			課長	1	兼務調剤課(事務取扱)
			課長	1	医薬品管理課
			係長	欠	調剤係
			係長	欠	製剤係
			係長	欠	麻薬係
			係長	4	医薬品情報係 薬剤部付
2	放射線科診断部	29	部長	大谷 洋一	医師の兼務
			副部長	1	医師の兼務
			技師長	欠	
			課長	1	放射線診断課
			係長	欠	放射線診断係
3	放射線科治療部	29	係長	3	放射線科部付
			部長	大谷 洋一	医師の兼務
			副部長	1	医師の兼務
			課長	1	放射線診断課兼務
4	病理部	35	係長	欠	放射線治療係
			部長	熊谷 二朗	医師の兼務
			課長	欠	病理検査課
5	検査部	35	係長	欠	病理検査係
			部長	山本 晃	医師の兼務
			技師長	欠	
			課長	1	臨床検査課
			係長	欠	検体検査係
			係長	欠	生理学一係
			係長	欠	生理学二係
係長	欠	輸血係			
6	リハビリテーション科部	26	係長	3	病理・検査部付
			担当部長	新井 雅信	医師の兼務
			課長	欠	
			係長	1	リハビリテーション一係
7	医療技術部	28	係長	1	リハビリテーション二係
			部長	有村 明彦	医師の兼務
			課長	1	医療技術課
			係長	欠	臨床工学係
			係長	欠	視能訓練係
			係長	欠	歯科衛生・技工係
			係長	欠	臨床心理係
			課長	1	兼務栄養課 事務取扱
			係長	1	栄養係
			係長	欠	調理一係
係長	欠	調理二係			
検査・医療技術部門計		149			

7 管理部門責任体制

	部門名	配置予定	職名	氏名	備考
1	医療情報センター	14	センター長	高橋 弘充	薬剤師の兼務
			課長	1	医療情報課
			係長	1	医療情報係
			課長	1	経営企画課 兼務
			係長	1	医療情報係 兼務
2	医療安全推進室	2	室長	小森 博達	医師の兼務
			課長	1	医療安全推進課
			係長	欠	安全推進係
			係長	欠	サービス係
3	事務部	163	部長	小山田 茂夫	
			副部長	欠	
			課長	1	総務課
			係長	1	総務係
			係長	1	秘書係
			課長	1	人事課
			係長	1	人事係(事務取扱)
			係長	1	職員係
			課長	1	会計課
			係長	欠	経理係
			係長	欠	出納係
			課長	1	調度課
			係長	1	調度係
			係長	1	物品管理係
			係長	欠	物流係
			課長	1	施設課
			係長	1	施設係
			係長	欠	供給係
			課長	1	入院業務課
			係長	1	入院係
			係長	欠	救急係
			係長	1	病歴係
			課長	1	外来業務課
係長	1	外来係			
係長	1	社会係 兼務			
課長	1	赤十字事業推進課			
係長	欠	赤十字事業推進係			
管 理 部 計		179			

## IX 医療機器整備計画・施設管理計画

1 医療機器の整備計画(購入予定価格500万円以上)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管 理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	未定	未定	未定	未定

2. 施設設備管理計画  
(法定及び自主点検業務)

その他の保守管理業務	実施頻度	実施月												実施方法及び保守管理基準
		平成20年												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 換気設備点検業務	毎時													取組状況確認による実施
2 設備等点検業務	毎時													取組状況確認による実施
3 監視業務	毎時													計画・取組状況の把握
4 換気・設備点検業務	毎時													設備等の点検・維持管理
5 一般エリア清掃業務	毎日													取組状況による衛生・環境管理
6 特殊エリア清掃業務	毎日													その他、OJ等の設備管理
7 巡回業務	2回/年			○						○				法令による取組
8 検査管理業務	毎日													設備・設備の保守管理
9 空調機等フィルター交換	1回/年				○									フィルターの取組状況による交換
10 //	毎月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	取組状況確認による交換
11 空調用加湿器等フィルター交換	1回/3～6年													メーカー標準
12 ファンコイルユニット用フィルター交換	1回/年													取組状況確認による交換
13 図形板の交換	1回/3～5年													メーカー標準
14 換気機清掃業務	毎日													取組状況確認による取組
15 エアシレンスキタド試験測定	2回/年	○						○						設備点検業務
16 ホルムアルデヒド作動環境測定	2回/年			○										計画点検業務

### 3 施設設備改修計画

(平成 25 年度)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管 理・診療等)	施設・設備名称	面積(㎡)	用途	新規・修繕
1	建物外壁	建物外壁調査		施工10年目の定期調査	新規
2					
3					
4					
5					
6					
7					



## **X 経営計画**

11 経営計画  
(1) 外来患者数

	実日数 (日)	患者数 (人)		一日平均 患者数 (人)	うち救急患者数 (全体) (人)			うち救急車での来院数 (人)		
		初診	患者延数		時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計
平成26年度 (計画)	244	39,775	219,441	1,041	2,531	16,064	18,595	1,484	6,406	7,890
平成25年度 (計画)	244	39,775	219,441	1,041	2,531	16,064	18,595	1,484	6,406	7,890
平成24年度 (見込)	245	39,938	220,340	1,041	2,538	16,108	18,646	1,488	6,424	7,912
平成23年度 (実績)	244	38,971	216,061	1,045	2,841	16,173	19,014	1,662	6,749	8,411

(2) 入院患者数

	実日数 (日)	患者数 (人)			一日平均 患者数 (人)	平均在院日 数 (日)	病床利用 率 (%)	うち救急患者数 (全体)			うち救急車での来院数 (人)		
		新入院	退院	患者延 数				時間内	時間外	合計	時間内	時間外	合計
平成26年度 (計画)	365	14,578	14,578	198,696	544	12.6	85.9%	1,252	4,042	5,294	1,106	2,466	3,572
平成25年度 (計画)	365	14,578	14,578	198,696	544	12.6	85.9%	1,252	4,042	5,294	1,106	2,466	3,572
平成24年度 (見込)	365	14,578	14,578	197,132	540	12.6	85.2%	1,252	4,042	5,294	1,106	2,466	3,572
平成23年度 (実績)	366	14,390	14,426	197,851	541	11.8	85.3%	1,302	4,112	5,414	1,142	2,614	3,756

(3) 行爲別診療収入 (外来)

	実日数 (日)	初・再診	指導料 ・在宅	投薬	注射	処置・手術	検査	画像診断	リハ	精神・ 処方箋	放射線 治療	その他	合計	一人一日 当り
平成26年度 (計画)	244	290,693	278,581	24,224	538,993	175,627	890,247	648,003	12,112	118,094	51,477	0	3,028,050	11,920
平成25年度 (計画)	244	290,693	278,581	24,224	538,993	175,627	890,247	648,003	12,112	118,094	51,477	0	3,028,050	11,920
平成24年度 (見込)	245	291,884	279,722	24,324	541,202	176,347	893,895	650,658	12,162	118,578	51,688	0	3,040,458	11,920
平成23年度 (実績)	244	276,875	264,140	42,524	492,913	156,245	834,448	614,767	14,318	109,639	49,471	0	2,838,257	11,129

(4) 行爲別診療収入 (入院)

	実日数 (日)	初・再診	指導料 ・在宅	投薬	注射	処置・手術	検査	画像診断	リハ	精神・ 放射線	DPC・入 院	その他	合計 (空科除く)	一人一日 当り
平成26年度 (計画)	365	13,754	96,280	96,280	55,017	4,208,826	123,789	41,263	151,298	68,772	8,899,053	831,109	13,754,333	69,223
平成25年度 (計画)	365	13,754	96,280	96,280	55,017	4,208,826	123,789	41,263	151,298	68,772	8,899,053	831,109	13,754,333	69,223
平成24年度 (見込)	365	13,754	96,280	96,280	55,017	4,208,826	123,789	41,263	151,298	68,772	8,899,053	831,109	13,574,312	68,859
平成23年度 (実績)	366	19,413	85,280	94,533	65,755	3,423,138	114,073	37,736	126,826	68,248	8,304,143	771,585	12,659,653	63,986

(5) 中央部門業務計画

手 術 室	件数	4月	5月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
		件数	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290	290
藥 劑 部	全身麻醉	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1,440
	局所麻醉	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420
	脊椎麻醉	445	445	445	445	445	445	445	445	445	445	445	445	445	5,340
	合計	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	96,000
	入院処方	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	108,000
	入院注射	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	1,200
	外来処方	950	950	950	950	950	950	950	950	950	950	950	950	950	11,400
	外来時間外処方	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	650	7,800
	外来注射	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	123,600
	院外処方箋	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	9,600
リ ハ バ リ	抗がん剤温注	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1,440
	IVH調整	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	8,400
	服薬指導	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	30,620	367,440
	合計	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	45,000
	理学療法	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
	作業療法	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	12,000
	言語聴覚療法	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	75,000
	合計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	気管支鏡	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	370	4,440
	内 視 鏡	上部消化管	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
下部消化管		40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	480
ERCP		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
超音波内視鏡		585	585	585	585	585	585	585	585	585	585	585	585	585	7,020
合計		200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,400
透析		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
血液交換		201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	2,412
合計		27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	27,300	327,600
一般食		10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	128,400
治療食		450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	5,400
調乳	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	1,800	
栄養相談	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	463,200	
合計	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	38,600	463,200	

(5) 中央部門業務計画 (検査部)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検体検査	一般(プランチ)	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	78,000
	血液	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	12,800	153,800
検査	血液(外注)	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	98,400
	生化学(プランチ)	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	1,560,000
検体検査	免疫血清(プランチ)	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100	73,200
	細菌(一般)	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	36,000
検体検査	細菌(結核)	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	1,800
	血液ガス(プランチ)	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	750	9,000
検体検査合計		167,500	167,500	167,500	167,500	167,500	167,500	167,500	167,500	167,500	167,500	167,500	2,010,000
		2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	27,600
生理検査	心電図	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	600
	脳波	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	420	5,040
生理検査	呼吸機能	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	14,400
	超音波	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	1,680
検査	心カテ	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	3,000
	耳鼻科検査	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	1,920
生理検査合計		4,520	4,520	4,520	4,520	4,520	4,520	4,520	4,520	4,520	4,520	4,520	54,240
		2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	27,600
時間外検査	患者数	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	180,000
	患者数	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	68,400
外注検査	患者数	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	40,800
	患者数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
入院患者尿検査	患者数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	患者数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
尿薬呼吸試験	患者数	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	6,000
	患者数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
病理検査	組織診断	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	4,320
	迅速診断	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
病理検査	細胞診断	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	その他	897	897	897	897	897	897	897	897	897	897	897	10,764
輸血検査	合計	560	560	560	560	560	560	560	560	560	560	560	6,720
	MAP	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	2,400
輸血検査	FIFP	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	自己血濃厚血小板	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	720	8,640
輸血検査	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
輸血検査	血液型	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	7,200
	交差試験	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3,600
輸血検査	不規則抗体	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	6,000
	その他	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
輸血検査合計	1,430	1,430	1,430	1,430	1,430	1,430	1,430	1,430	1,430	1,430	1,430	17,160	

(5) 中央部門業務計画 (放射線科部)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
X線	胸部撮影	人数	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	50,400
	腹部撮影	人数	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	14,400
	骨部撮影	人数	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	21,600
	その他単純撮影	人数	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	1,320
	血管造影	人数	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	1,920
	消化器造影	人数	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	2,640
	泌尿器造影	人数	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720
	透視他造影	人数	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1,440
	骨塩定量	人数	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1,440
	合計	人数	7,990	7,990	7,990	7,990	7,990	7,990	7,990	7,990	7,990	7,990	7,990	95,880
上記の 内数	人数	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	16,800
CT検査	頭頸部	人数	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	800	9,600
	躯幹部	人数	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	19,200
MRI 検査	合計	人数	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	28,800
	頭頸部	人数	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	350	4,200
RI	その他	人数	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	570	6,840
	合計	人数	920	920	920	920	920	920	920	920	920	920	920	11,040
放射線 治療	体外測定	件数	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	130	1,560
	X線	件数	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	6,000
PETCT	電子線	件数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	600
	合計	件数	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	550	6,600
全身	件数	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	960



11 経営計画  
(7) 損益計算書資本的(中期経営計画)

	23決算 (A)	24見込 (B)	増減 (B)-(A)	増加率% (B-A)/A*100	25予算 (C)	増減 (C)-(B)	増加率% (C-B)/B*100	26予算 (D)	増減 (D)-(C)	増加率% (D-C)/C*100
資本的収入	780,403	1,790,000	1,009,597	129.4	916,000	-874,000	-48.8	916,000	0	0.0
固定負債	41,650	1,438,000	1,396,350	3352.6	40,000	-1,398,000	-97.2	40,000	0	0.0
その他資本収入	738,753	352,000	-386,753	-52.4	876,000	524,000	148.9	876,000	0	0.0

	23決算 (A)	24見込 (B)	増減 (B)-(A)	増加率% (B-A)/A*100	25予算 (C)	増減 (C)-(B)	増加率% (C-B)/B*100	26予算 (D)	増減 (D)-(C)	増加率% (D-C)/C*100
資本的支出	780,403	1,790,000	1,009,597	129.4	916,000	-874,000	-48.8	916,000	0	0.0
固定資産	474,854	920,000	445,146	93.7	400,000	-520,000	-56.5	400,000	0	0.0
借入金等償還	305,549	870,000	564,451	184.7	516,000	-354,000	-40.7	516,000	0	0.0
その他負債*	0	0	0	--	0	0	--	0	0	--

11 経営計画  
 (8)手術件数

	部門名	25年度
1	内 科	25
2	呼 吸 器 科	0
3	消 化 器 科	0
4	循 環 器 科	10
5	神 経 内 科	0
6	ア レ ル ギ ー 科	0
7	小 児 科	0
8	外 科	1,005
9	呼 吸 器 外 科	60
10	心 臓 血 管 外 科	130
11	脳 神 経 外 科	120
12	整 形 外 科	1,300
13	形 成 外 科	620
14	皮 膚 科	200
15	泌 尿 器 科	470
16	産 婦 人 科	500
17	眼 科	260
18	耳 鼻 咽 喉 科	100
19	リハビリテーション科	0
20	精 神 科	330
21	放 射 線 科	0
22	麻 酔 科	0
23	歯 科 口 腔 外 科	210
	計	5,340



11 経営計画  
(9) 出産件数

25年度

1 出 産 件 数

月	件数
4月	83
5月	84
6月	83
7月	84
8月	83
9月	84
10月	83
11月	84
12月	83
1月	83
2月	83
3月	83
合計	1000

※月平均80件、年間合計1,000件の計画